

西遊旅譚

卷之肆

ル 3
334
4

特別
ル 3
334
4





西遊旅譚卷之四

十一月十四日長崎を發して三里時津に到る十五日朝船

又小串と云ふ小島あり大村領龜浦と云ふ小島あり船を

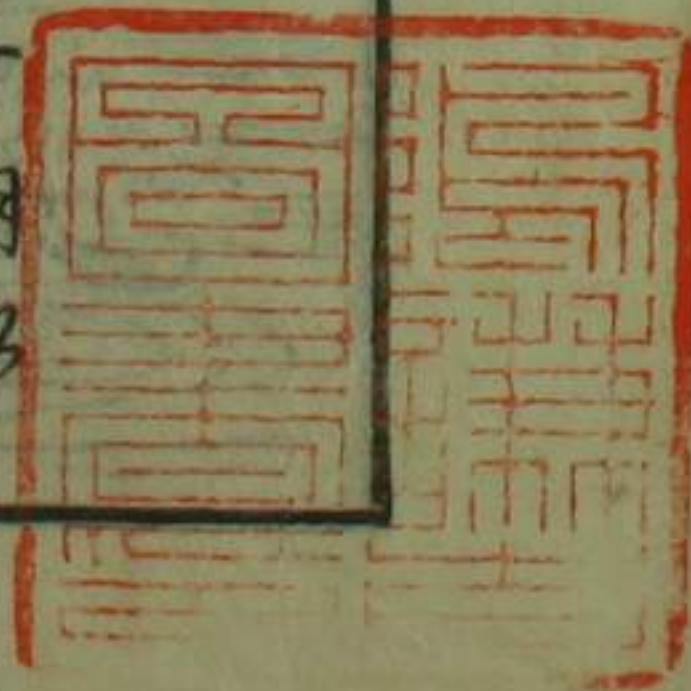
出せし又小串と云ふ小島あり大村領龜浦と云ふ小島あり船を

比船と出せし六里を走平戸領針尾瀬戸に到る大村領

左平戸領と云ふ地の辨天沖の岬あり此半里程の中

山入組齧齧と云ふ潮岸岩に碇泊しし時雲珠捲

をとりて誤り乗入る船勿心沈むと又海底岩石抜出



門ル名3
 瑞
 卷

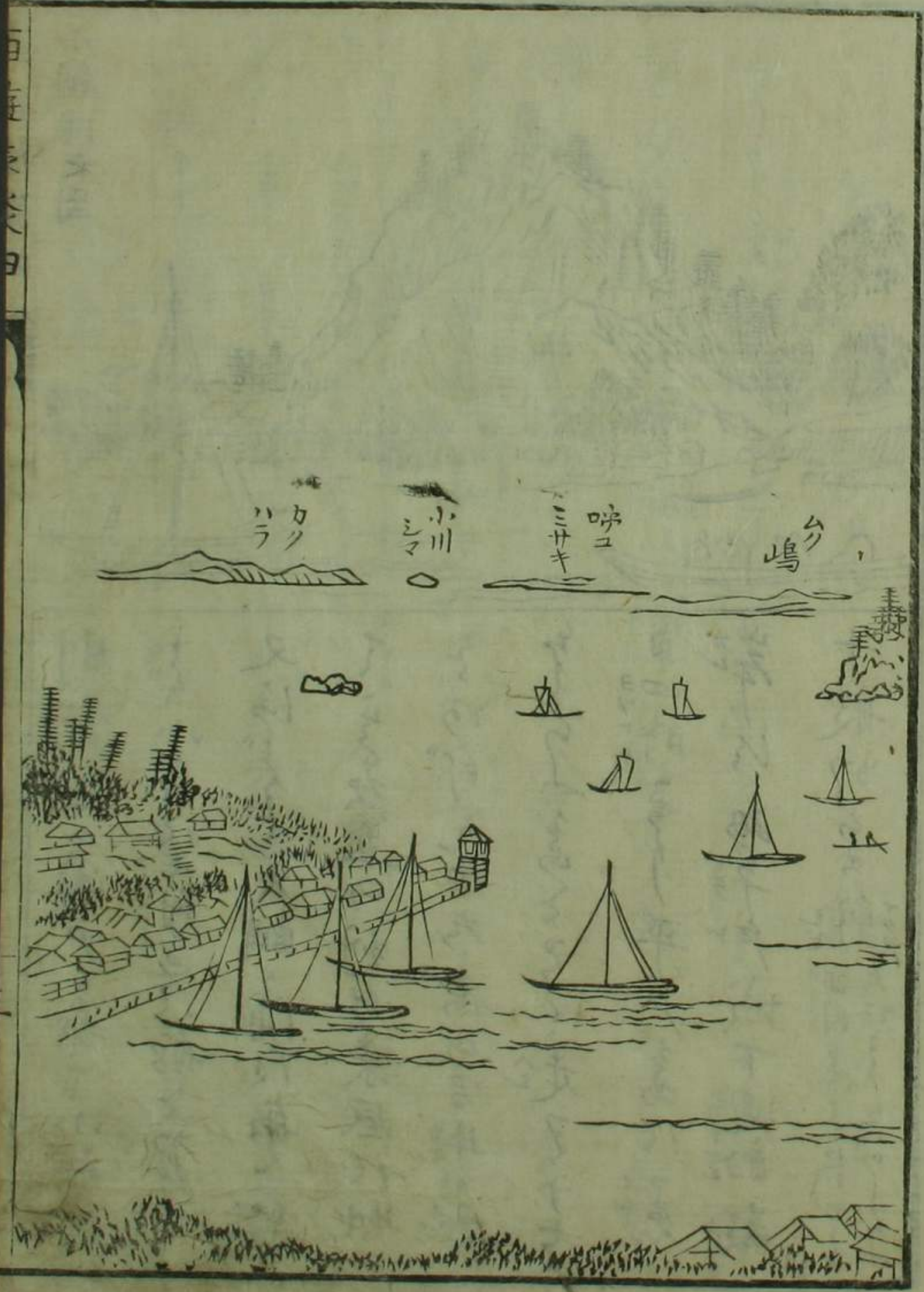
向所ハ長崎の方なり



西遊記 四

西ハ白波トシ飛ホウで沸湯タウ
 のみ湖ウホミチ海ミをシおと
 宗干湖ヒシホにノラズ乗

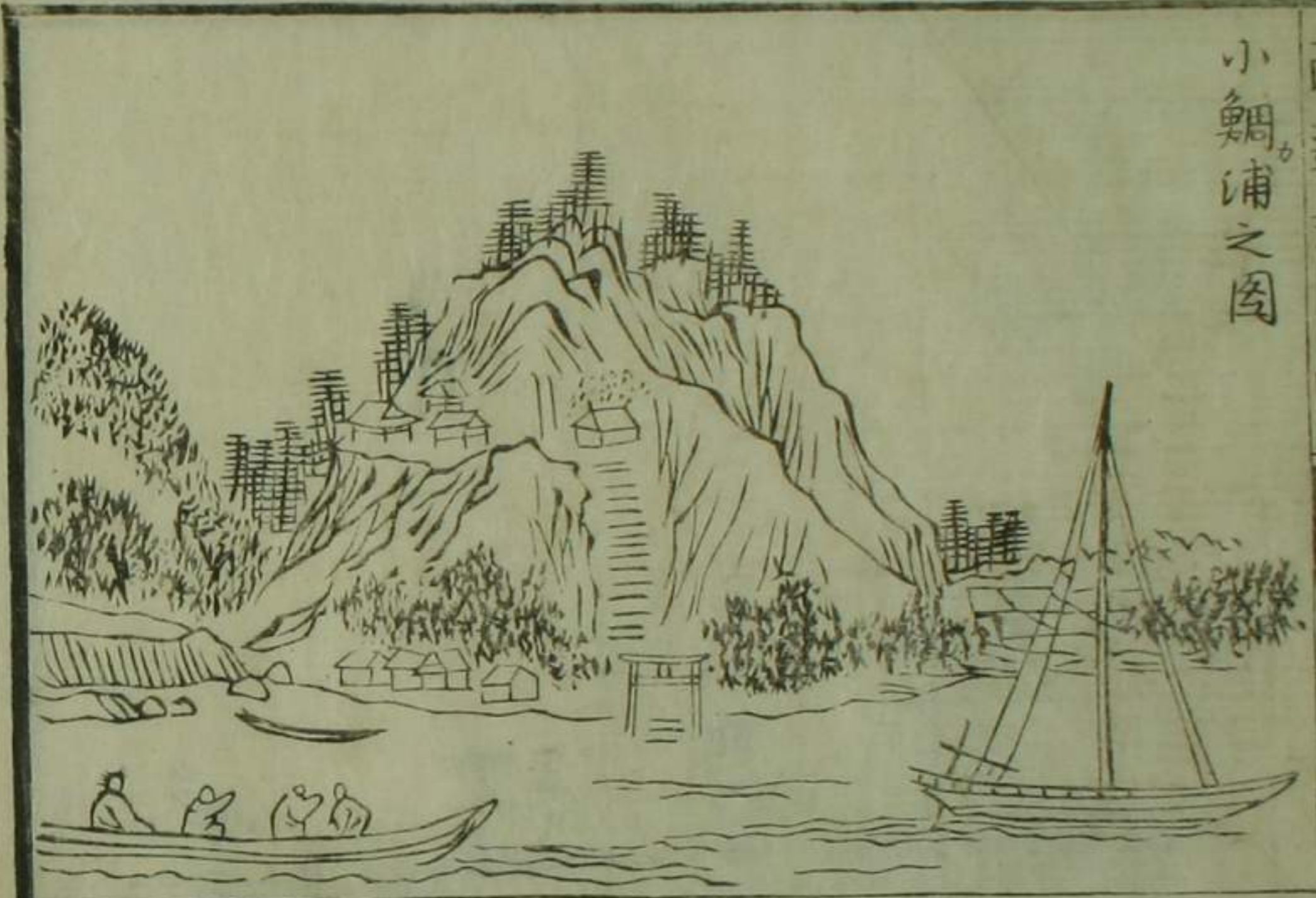




平下
勝山ヨリ
眺タル圖

正徳元...

小鯛浦之図



則針尾の瀬戸を越て小鯛浦
 小島に七時迄に船をかける
 又ほづろ大鯛浦に船を留
 ては秋丑の刻は東風に帆
 をあげ九十九島の百牛が首
 を振りふる島を走りて十七
 日四時より平戸島に
 岸は平戸城下廻船敷
 十艘あり

西國をこへハビト
 大坂よりハビト

江戸を越て小鯛浦に船をかける
 小鯛浦に船を留
 浦より伊豆の東海を經て七八日して江戸に來る
 又船中滞事ありは此島に漬るに船を置くは
 小田町より又船中滞事ありは此島に漬るに船を置くは
 朝ハ伊豆の秋より伊豆の冬まで此島に漬るに船を置くは
 平戸より五六尺廻船ありハ大余甚毒なり
 此島に漬るに船を置くは
 雪霜稀なり赤大根赤蕪の菜を食
 玉瓶の健名をいづる菜を食
 食事も四度にき

平戸城下觀音院の地内鐘ツリカネより支那より渡りたる鐘
 真シに支那物カフモノなり播州尾上乃鐘カネも同物なり其の鐘
 親善堂より小松重盛の親善堂より又阿部宗任の塚より
 昔マドと和蘭及イギリスより此島に船ツケと運ツケりし鐘
 園カネの屏イ今イテイる石を運ツケりし鐘ツケを海ヌルより市街チ乃
 橋石カネとゆイはくはる事長崎の如イ昔西洋の人上月廿三日冬
 至ツき寺イの開基支那僧カイキより今イに此鐘を祠ミヤの如
 俗家ガクにありび候等搗ツキりイハふ
 親善堂地内鐘之圖

阿蘭陀牆



聖護院御願所平戸島觀音院
 奉施入鐘一口應永十二年未
 十二月日と彫りし



天人樂器を鑄り



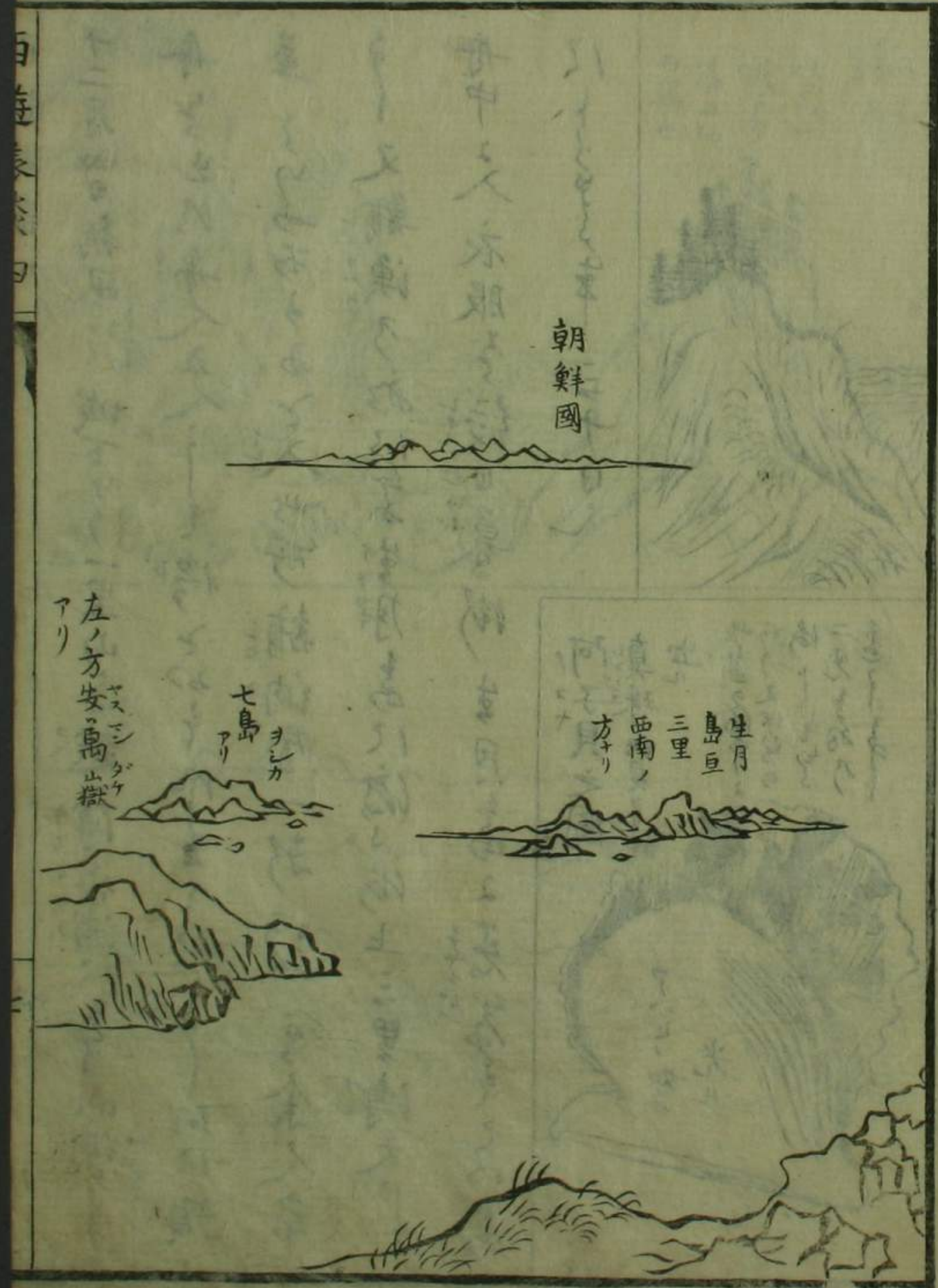
平戸城下より一里北の方白山嶽^{ダケ}行路坂をのり山入
 柴^{シバ}を焼^{ヤク}し馬^{ウマ}乃^ハ牧^カを放^{ハナ}白山嶽^{ダケ}頂^{タカ}より大島^{オホシマ}宅^ヤ
 島^{シマ}眼下^{ガンカ}に見^ミ遠^{トホ}に志^{イキ}州^{シマ}なる^{トキ}志^{トキ}に對^{タイ}馬^{ウマ}を^イ開^ヒく^カ
 ニッま布^フ太^タ髪^{カミ}と^カ西^ニ北^キ邊^ヘに^ハ船^{フネ}保^ホ固^コ岸^キと^カ見^ミえ^カふ^カと^カ東^{ヒガシ}
 の方^{マタラシ}斑^シ島^{シマ}唐^{カラ}津^ツ乃^ハ西^ニの方^{マタラシ}日本^{ニッポン}の地^チと^カ支^カ那^ナ海^{ウミ}より西^ニより南^{ミナミ}嶽^{ダケ}
 月^{ツキ}島^{シマ}と^カ西^ニ北^キ邊^ヘに^ハ志^{イキ}州^{シマ}なる^{トキ}志^{トキ}に對^{タイ}馬^{ウマ}を^イ開^ヒく^カ
 山^{ヤマ}嶽^{ダケ}より田^タ助^{スケ}浦^{ウラ}なる^{トキ}志^{イキ}州^{シマ}なる^{トキ}志^{トキ}に對^{タイ}馬^{ウマ}を^イ開^ヒく^カ
 下^{シモ}関^{セキ}の方^{マタラシ}渡^{ワタリ}る^{トキ}に船^{フネ}を
 切^キける^{トキ}港^{ミナト}なり
 方^{マタラシ}濟^シ日本^{ニッポン}房^フ州^{シュウ}に漂^{ヒラ}流^ユる^{トキ}の^{トキ}志^{イキ}州^{シマ}なる^{トキ}志^{トキ}に對^{タイ}馬^{ウマ}を^イ開^ヒく^カ
 一^{ヒト}軸^{シヤク}と^カ國^{クニ}の^{トキ}志^{イキ}州^{シマ}なる^{トキ}志^{トキ}に對^{タイ}馬^{ウマ}を^イ開^ヒく^カ
 の^{トキ}志^{イキ}州^{シマ}なる^{トキ}志^{トキ}に對^{タイ}馬^{ウマ}を^イ開^ヒく^カ
 山^{ヤマ}と^カ西^ニ北^キ邊^ヘに^ハ志^{イキ}州^{シマ}なる^{トキ}志^{トキ}に對^{タイ}馬^{ウマ}を^イ開^ヒく^カ



薄^{ウス}香^カ浦^{ウラ}香^カ浦^{ウラ}
 之^ノ圖^ズ
 平^{ヘイ}戸^コ城^{シヤウ}下^カヨリ二^ニ里^リ
 是^{コノ}ヨリ生^ナ月^{ツキ}島^{シマ}
 彼^{コノ}レ海^{ウミ}上^ノ三^{サン}里^リ



山^{ヤマ}津^ツ唐^{カラ}
 浦^{ウラ}助^{スケ}田^タ



西遊雜談

四

十二月四日朝風行り城下より一里山を越薄香浦に到り此浦より
 舟を出り舟人五人より移りて舟をこぎて此所納屋一軒あり其余人家
 草のりりありありと入此所納屋一軒あり其余人家
 舟中又衣服を紋日暮漸生月島に渡り海上三里濤大はて
 二見をあり乃



阿子貝之圖
 真珠此貝より出
 此島の海中に
 あり又伊勢の
 海にもあり
 二見をあり乃

須草

此所の
 城下の
 後田助
 の腸也



須草の
 図



生月島之圖

巨三里



五日四時より、^ヤ孩子^ガ嶽^ケ頂^ニに
ついで、^シ甲^ノ夫^ノ家^ヲ行^ク石^ヲと^削て
登^ルて、^シ舎^ヲと^作り、^シ廿^日登^ルて
嶽^ノ頂^ニ至^リ、^シ見^ル人^ノ
の、^シ一^年兩^度に^もあ^る
西^ノ方^ニ暮^色色^國と
支^那の^地也



ヤ、^ガ孩子^ケ嶽^ニ
登^ル、^シ中^ニ小^童
来^ル、^シ固^ク如^シ

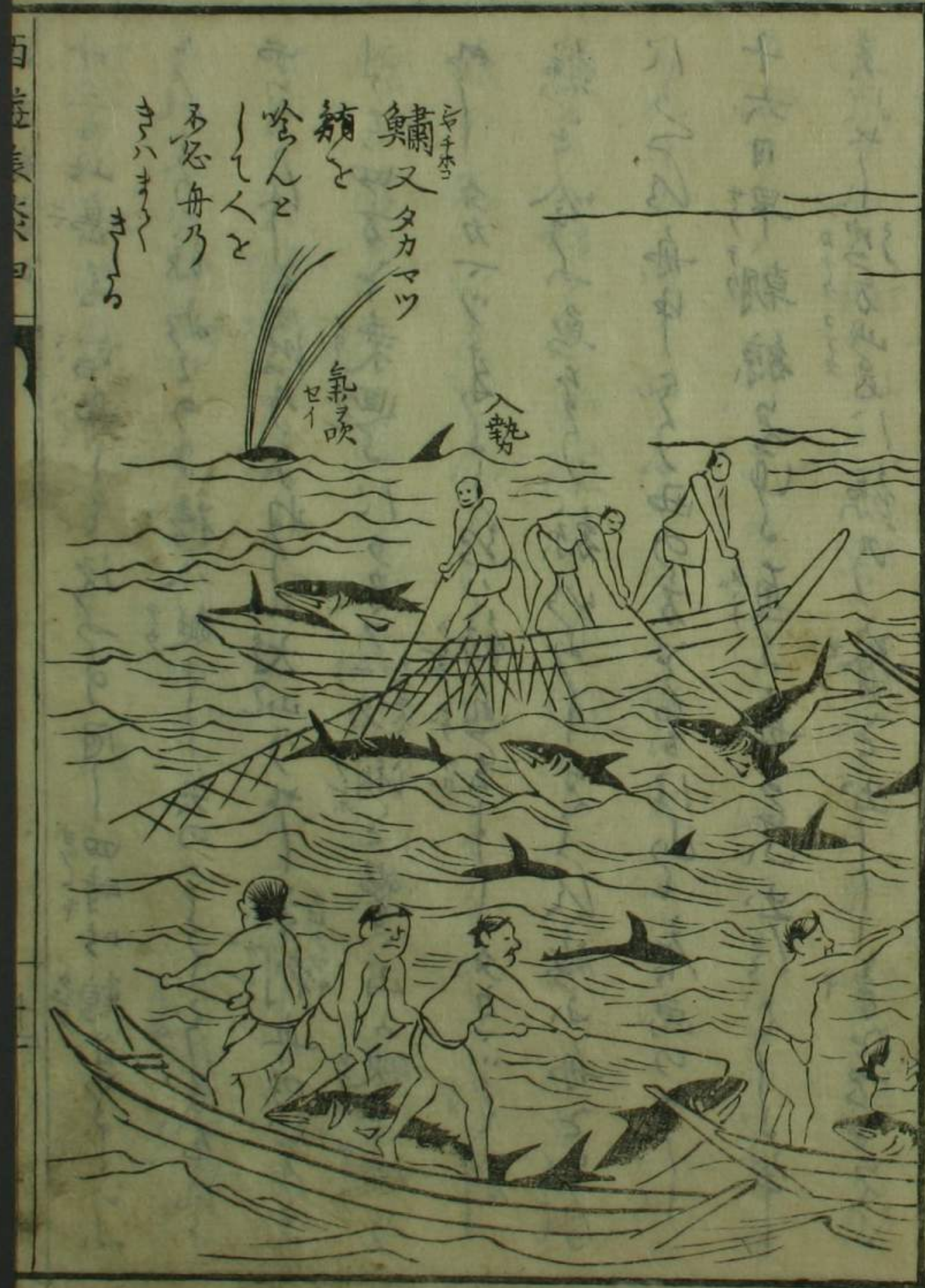


Vertical text on the left side of the page, likely a continuation of the story or a commentary. The text is written in a cursive style and is partially obscured by the illustration.

此を海中より龍の天に昇事多龍昇人すはるき海波
 千珠の如く捲りたり天よりハ黒雲降其雲波とくると
 ど波多うりひかり天上とと鱗とらる魚の尾乃多
 多如雲れ中よりさがる即龍の尾あり故り此島のまは
 龍の昇とるく鱗の尾と漁又アイノウ八日此島乃うら
 杉本とらる不箱漁とる如鱗の冬月山くく乃
 岸とむゆくまに山の嶺に網と布一網
 二三百或四五百大漁乃とる千も入す

箱網之圖





鮪漁

西遊記

十三日此島も煤拂しつゝ同日一四時時鯨ありし
 所れより鯨船より櫓八艘一矢のこゝろをぬき
 やりつゝにほろりぬりハ太山乃ハ主刺舟のおもて
 うち四方を乗廻りにタカツ一名潮とゆき山を映し煙乃
 ぬータカツあるは鯨船に去る一タカツも別
 鯨を喰ふ魚なり鯨ゆき一は故舟を生月
 にて舟中より西の方を望むは山々唐画の如
 十六日早朝鯨をゆる直る舟も出づる一
 夫れハ波方此島に鯨の脊と出づる一と云ふ

夫より舟ハ鯨のる方、進て走尤平戸島と生月島乃皆
 の海より鯨いづこりし一は故舟を生月島の方、進
 らんとす時ややとす大島乃沖より一船の
 船より鯨をえ真鯨とす川旗ありし一四方の舟
 鯨の方にむむしんし一十艘よりなりし一
 鯨をゆるむしんし一巨喚乃大洋海一飛動し
 とるに波濤山の如し一やや一余り乗し一舟と云ふ
 一の如し一初更なる一三崎、鯨と切解し
 岩乃福波のまことす此島一岩を

鯨漁之圖

鯨以之出、海に
あられまを吹別
夫とて、魚を
投ると吹、尾
と出、海に
底へ入



鯨舟ハ二十艘ト出
て、舟に舟をつら
納め、出、海に
名づく
一、結とて、ハ納み二艘
通舟二艘、うり、此、ま
三、結と出、は、結、ハ、ま
ハ、艘、納舟ハ大船と
是、納と、積、お、う

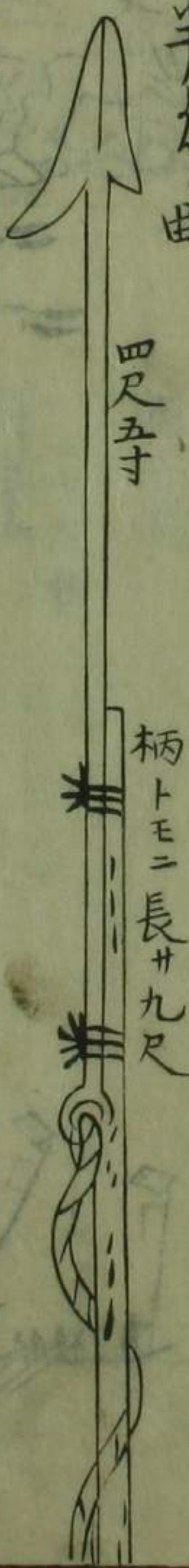


鯨を綱で捕りて綱は縄を一つも浮木をかりて幕の如
 海中に張るる綱の方へくぐらうとおふ
 綱は七八百間も海底に張る綱を十間三間一節を
 くぐらうの綱はぬれぬれに縄を不よう切て鯨乃
 頭を冠る鯨はぬれぬれに縄を不よう切て鯨乃
 一鯨の脊へ舟を乗らざればくぐらうあらば鯨一鯨投
 らば鯨は縄をぬれぬれに縄を不よう切て鯨乃
 とくぐらう二般よりとくぐらうとくぐらうとくぐらう
 一の鯨をくぐらうとくぐらうとくぐらうとくぐらう又

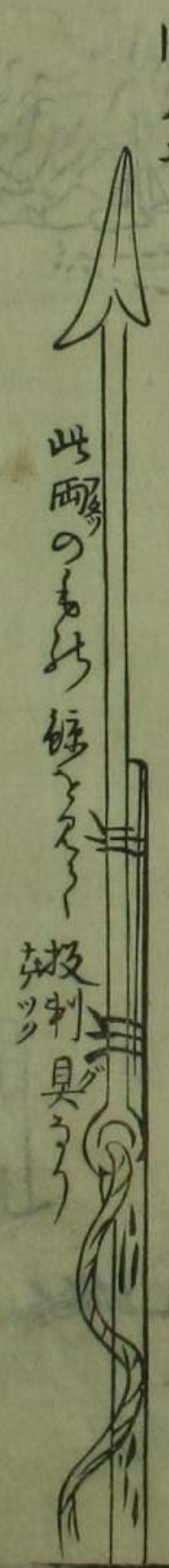
頭を舟に廻りて舟は鯨を殺す
 鯨は舟をぬれぬれに縄を不よう切て鯨乃
 舟入鯨の脊への舟を乗らざればくぐらうあらば鯨一鯨投
 舟をぬれぬれに縄を不よう切て鯨乃
 又一人の若大綱を捕りて舟の底へ鯨の腹を下に
 旋出せし舟二般に舟を乗らざればくぐらうあらば鯨一鯨投
 舟をぬれぬれに縄を不よう切て鯨乃
 共俱に鯨をくぐらうとくぐらうとくぐらうとくぐらう
 舟をぬれぬれに縄を不よう切て鯨乃

と止トシ心ココロ余ヨ此コノ海ウミをみよす鯨クジラの趣オモヒと心ココロ刺サシ勢セウ大ダイ水スイまき者モノ
 の働ウツクシ海ウミの戦セウ國クニの人の心ココロは海ウミの鯨クジラ乃ナラバ血ケツ流ナリゆ朱シユの色イロとあり
 別ワカ大ダイ島シマの沖ウチ平ヘイ戸コの嶺ミネ島シマ向ムカ海ウミ島シマの岐マタの因ユヅル對タガヒ馬ウマ遠トホに
 朝鮮チヨウセンの大海ウミより鯨クジラハ漸シヅカニ初ハジメ更ニ色イロの赤アカなる所トコロ
 湖ウミも鯨クジラ乃ナラバ半ナハと隠カクレたり全體ゼンタイハ所トコロ見ミ夜ヨの光ヒカリとあり
 西ニシの海ウミより是コノくさくさ湖ウミ千チて全體ゼンタイと海ウミ月の光ヒカリ
 了マタ大ダイ十ジュウ間カン餘ヨの世セ美ミ鯨クジラ也ナリ世セ美ミハ鯨クジラ刺サシ又マタ之ノ筋スジ曰イハレる
 時刻キョクよりかかれりある半ナハ此コノ島シマの両ウツ之ノ皮イダとあり
 此コノ全體ゼンタイとありも此コノ稀ヒなり

莫モロ踪ソウ之ノ圖ズ又マタヨロヅ此コノ製セイ生セイ鐵テツ之ノ作サク鯨クジラ刺サシ入イリ綱ツナとあり
 半ナハより曲カマ四ヨ尺シツ五ゴ寸サン柄ツグトモニ長ナガ廿ニ九ク尺シツ

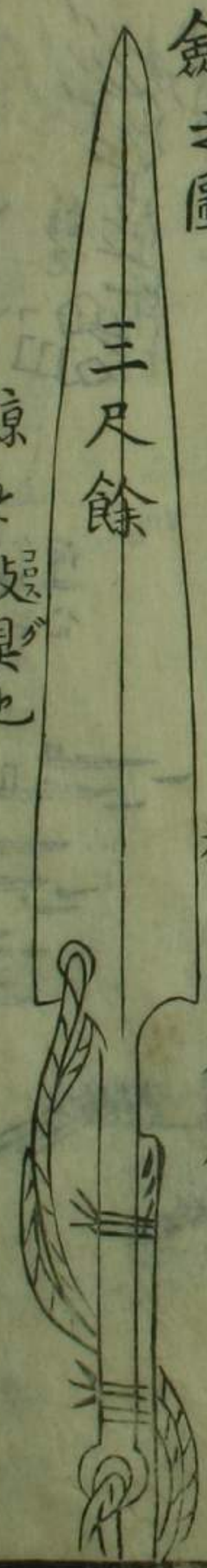


同ハヤト云



此兩のものは鯨を殺すに用ひたる殺刺具なり

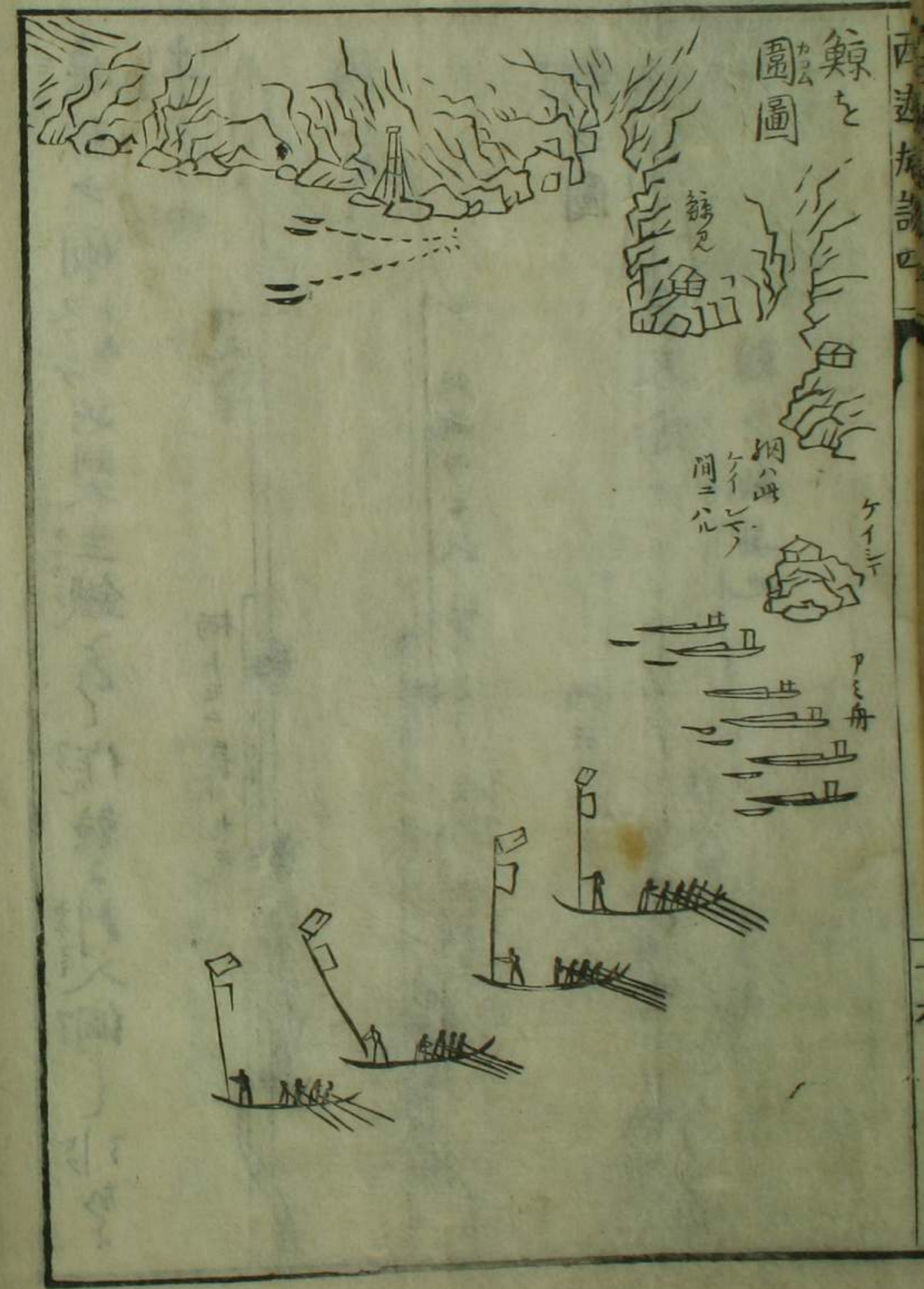
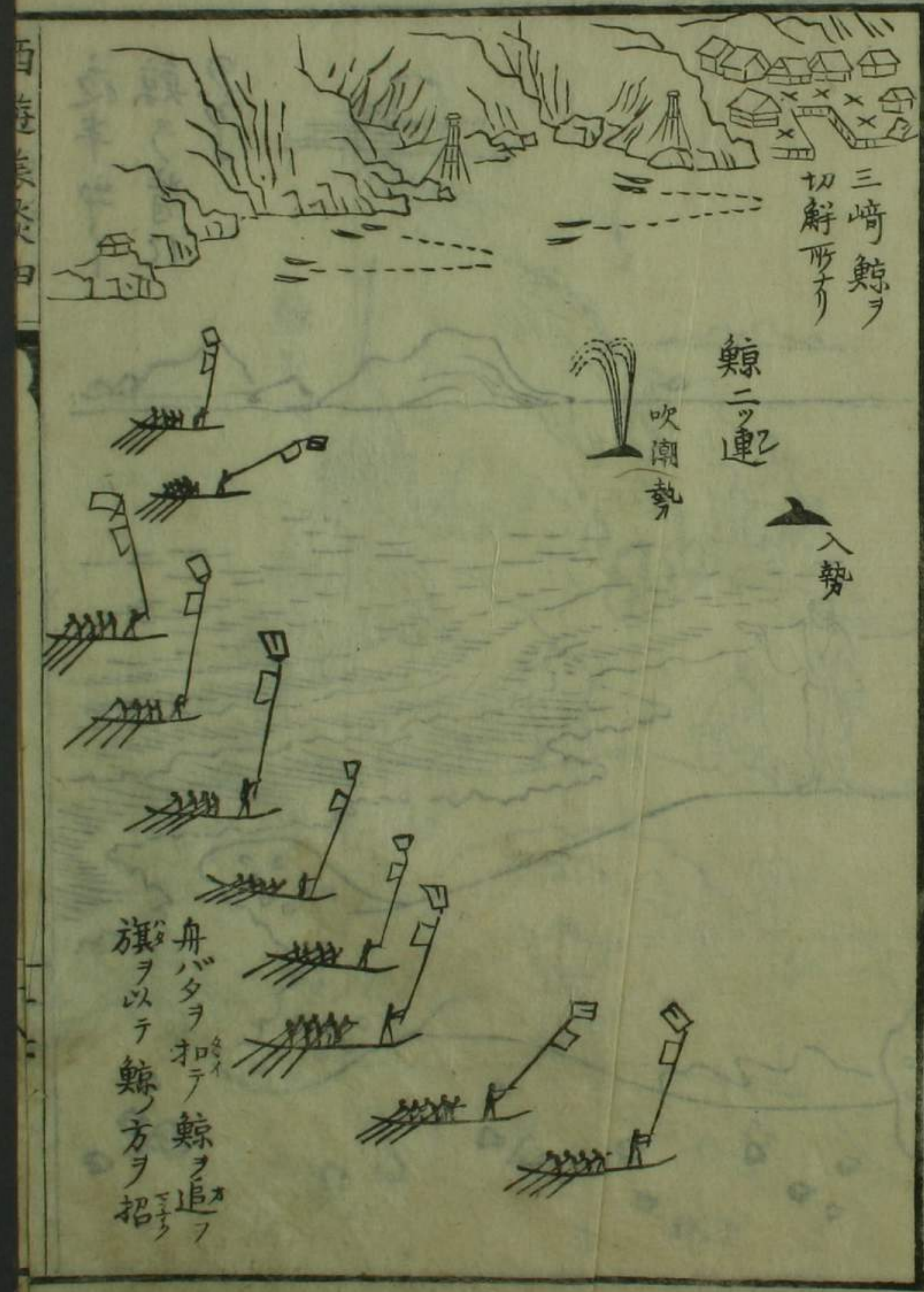
劍之圖



三尺餘

柄共ニ一丈三尺餘

鯨を殺具也





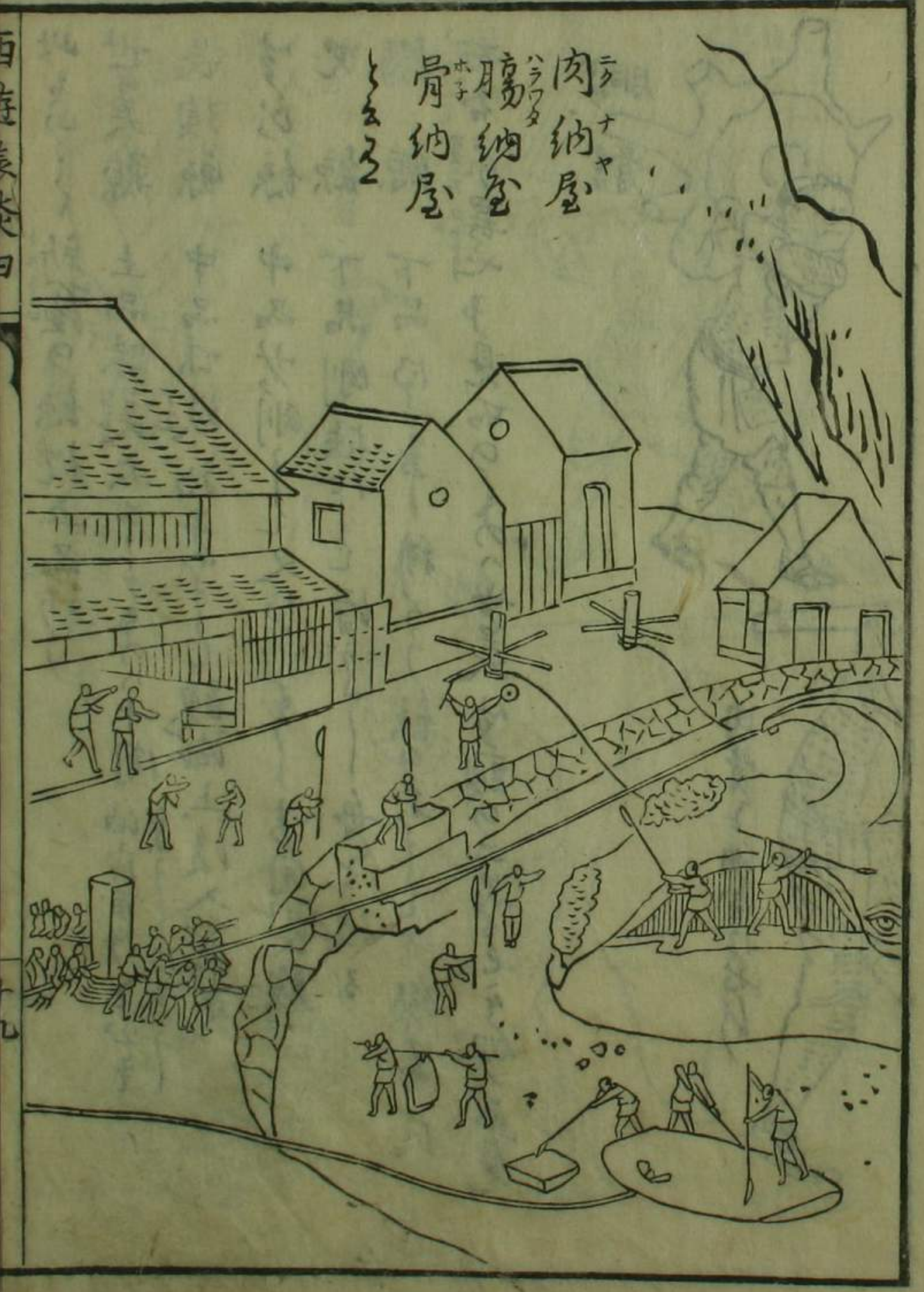
西遊記四

十七

鯨切解圖 此所ヲ
 三崎ト云
 鯨大腸と筋とを
 又その解の臭くつて
 小海老とつるやあま
 又鯨鯨とつる
 万力車 捲イ七ヶ所在
 大綱とつる捲イ

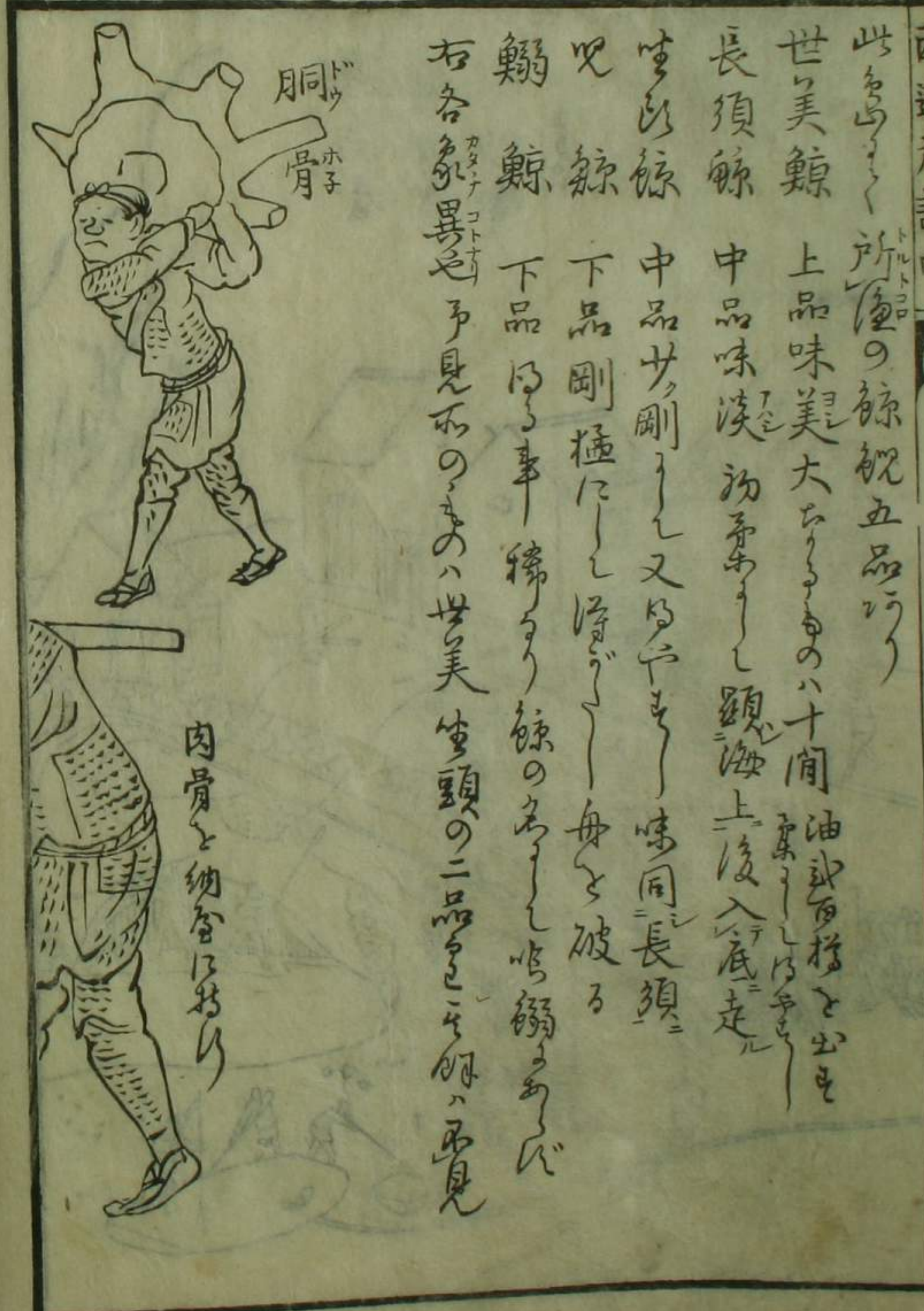


肉納屋
 腸納屋
 骨納屋
 とまろ





一まのしき
 鯨のしき
 別エラ
 前切し
 人夫ニ及ぶ持
 ベツタウト者
 人夫と云ふ
 図すも
 もの



胴骨

肉骨と細骨はあり

此の所産の鯨祝五品あり
 世美鯨 上品味美大なるものハ十間 油或百樽と出さ
 長須鯨 中品味淡 初希ありし 頸海上後入底走
 中品サ剛し又りやも 味同長須
 下品剛極にし 母と破る
 下品ゆる事 縋り鯨の名にし 吹弱あり
 右各異色 予見所のものハ世美生頭の二品を以て 解ハ見

生以鯨
腹の方
ウチリ

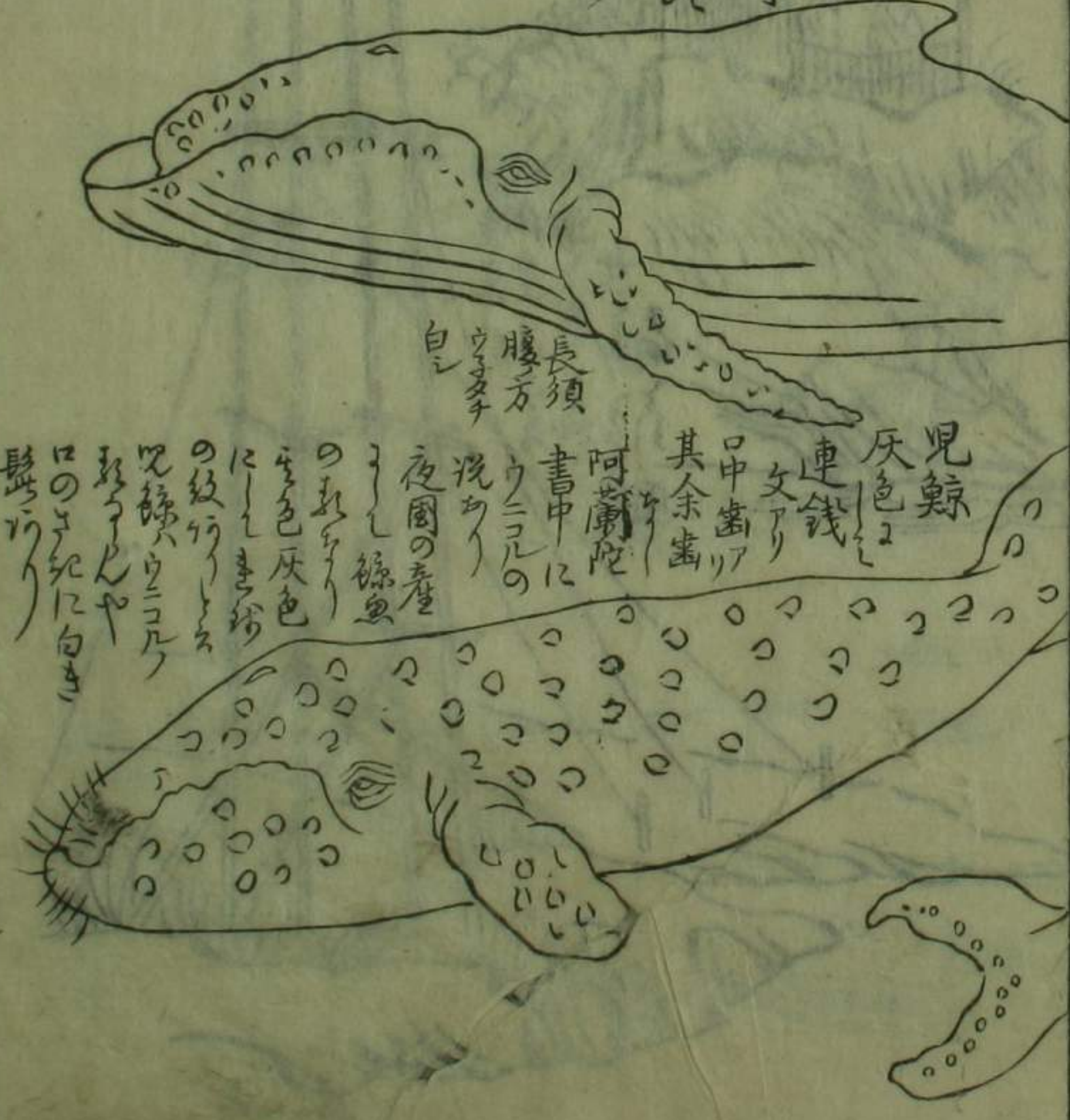
此ハ
コク
アリ



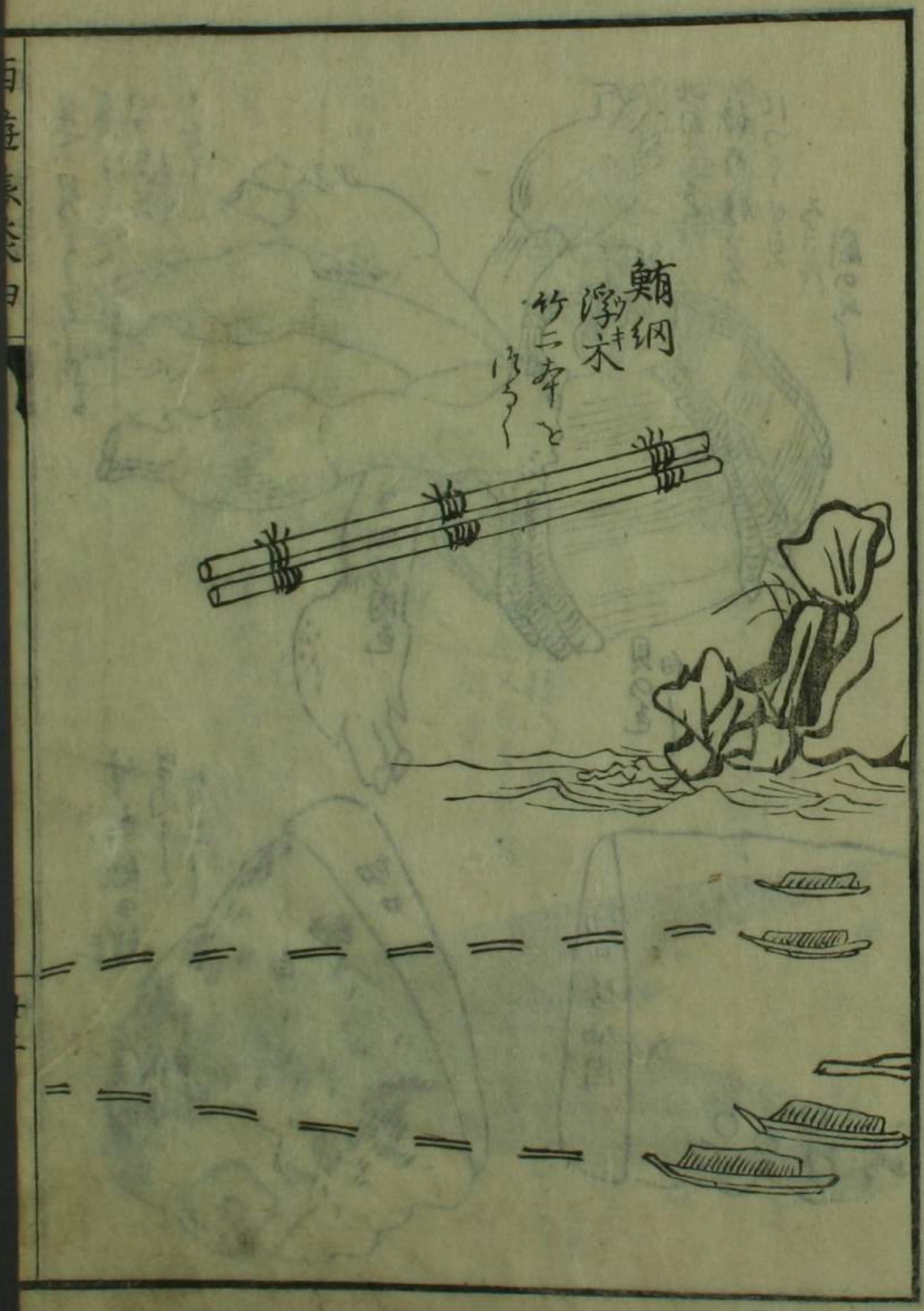
鰯鯨

世美

長須鯨
大九尺
腹子八寸より一尺五寸
總の鯨も卵並に
くちをす
交り
人の



長須鯨
腹の方
白
児鯨
灰色
連銭
女アリ
甲齒アリ
其余齒
阿蘭陀
書中
ウミの
洗
夜國の産
の鯨
灰色
にしき
の紋
児鯨
ア
口の
白



鰯網
浮木
竹二本と
ほろ

鰯見樓



鰯見

舟の上の
旗と出
鰯印
只網と引
周

西遊記

廿二



此貝は生脂
肉乃腹の方
につくせ貝
るべし

圖のよ



此世美鯨
の尾又
尾の骨
はつ

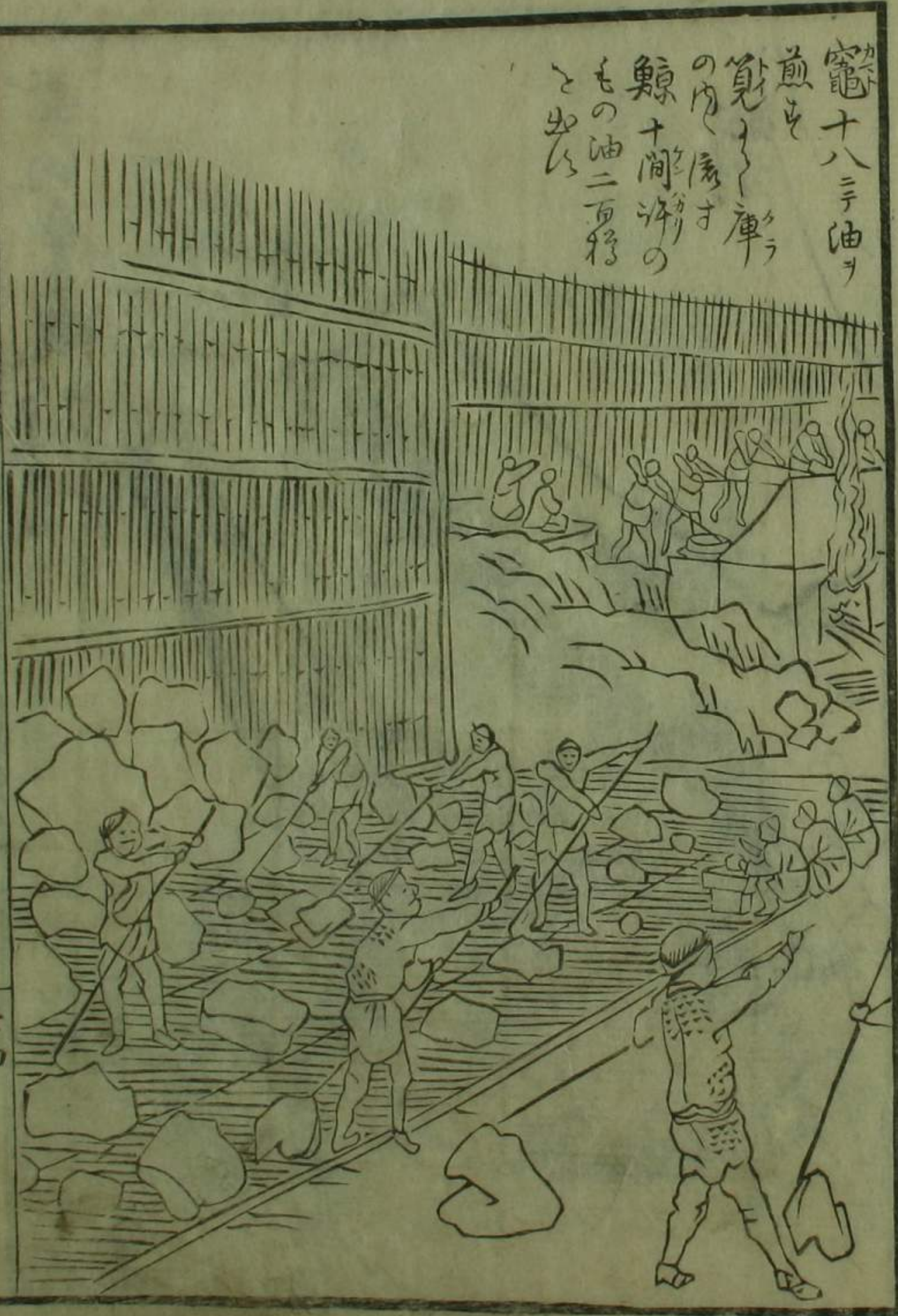
此世美鯨にあつ
瀬貝の周りに
生脂肉の骨

生脂肉の骨
又尾の骨
はつ

貝の色
又尾の骨
はつ



岩のせい
貝の
海岸の
石
生脂肉
はつ



竈十八丁油ヲ
煎也
鯨十間洋の
もの油二百石
と出ル



肉納
之屋
之圖

役人



骨と小く
油と煮む



肋骨

上
大骨

ライ鳥

此鳥をライ鳥と云ふは
蘇州の鳥と云ふは
蘇州の鳥と云ふは
蘇州の鳥と云ふは
蘇州の鳥と云ふは
蘇州の鳥と云ふは
蘇州の鳥と云ふは
蘇州の鳥と云ふは



頭ウス黄

嘴生胭脂ウス色

タカワノ歯 一名鱧

蘇州の歯と云ふは
蘇州の歯と云ふは
蘇州の歯と云ふは
蘇州の歯と云ふは
蘇州の歯と云ふは
蘇州の歯と云ふは
蘇州の歯と云ふは
蘇州の歯と云ふは



タカワノ歯

此圖ハ此島の漁父に尋く國ハ
海中に湖と吹氷と出れまはる
るも今體と云ふ
世美船と云ふ湖と二船と云ふ
くくく世美の妙と云ふと云ふ

タカワノ
一名シマチホコ
大廿二間余

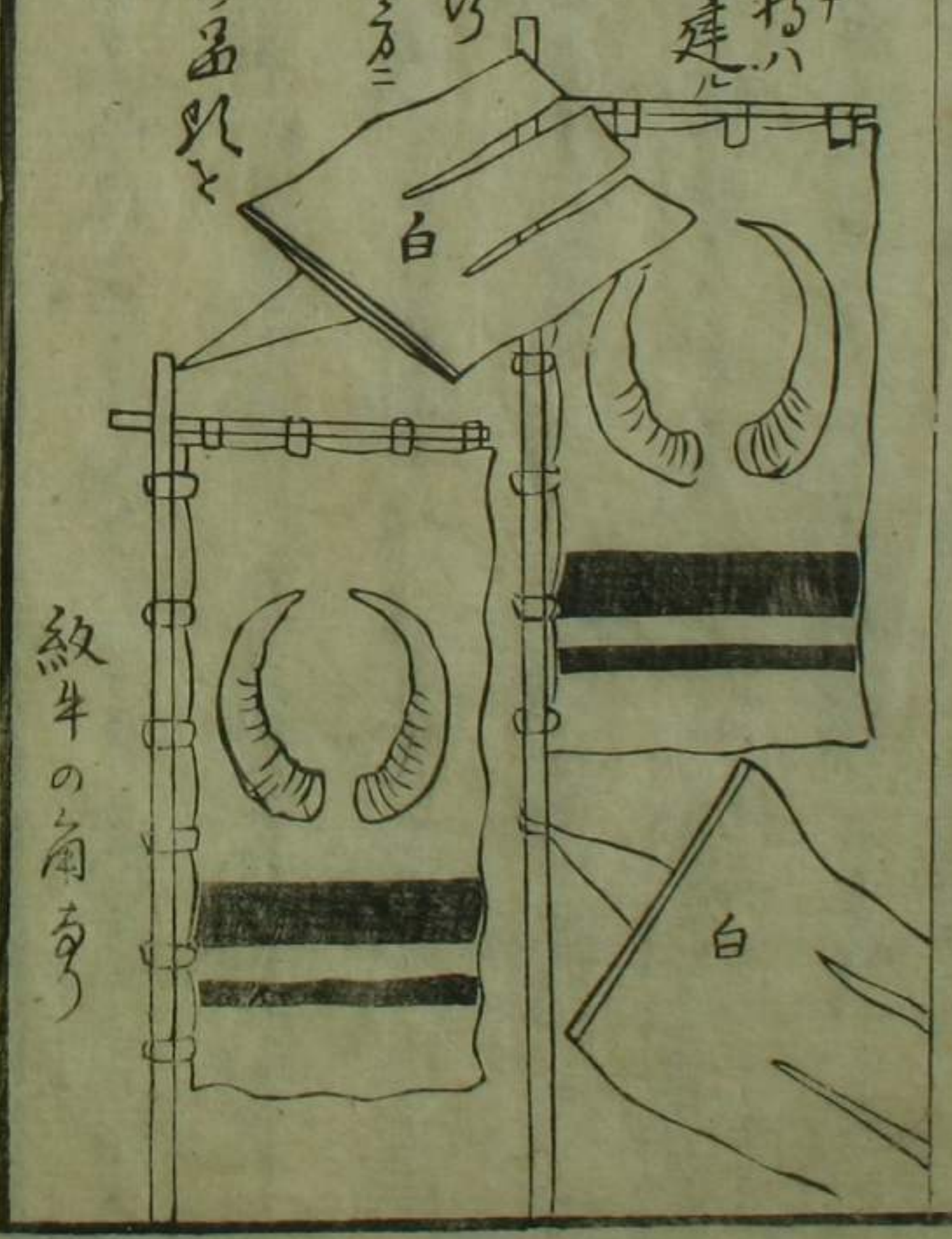


丈に^{ツビ}舟^{フネ}て^テ赤^{アカ}壁^{カキ}の^ノ懸^ケる^ルは^ハ油^{アブ}水^{ミヅ}と^シら^レる^ルに^ハ似^ニて^シ
 岩^{イハ}壁^{カキ}赤^{アカ}の^ノ大^{オホ}楮^コ石^{イシ}の^ノ形^{カタチ}に^ハ似^ニて^シ画^エの^ノま^まに^ハ似^ニて^シ田^タ助^{スケ}港^{ウラ}に^ハ懸^ケる^ル長^{ナガ}旗^{ハタ}
 兼^{カミ}舟^{フネ}此^{コノ}夫^{ウツ}より^ノ舟^{フネ}と^シ出^デて^シ平^{ヘイ}戸^コ城^{ジヨウ}下^カに^ハ着^{ツク}

鯨舟旗乃圖

長^{ナガ}旗^{ハタ}子^コ持^{モチ}ハ
 トモ^{トモ}の^ノ方^{カタチ}に^ハ建^{タテ}ル

勢^セ美^ビの^ノと^シハ^ハ船^{フネ}と^シ舟^{フネ}の^ノ表^{ウラ}に^ハ建^{タテ}ル^ル坐^{イハ}頭^{カウ}ハ^ハト^トモ^{トモ}の^ノ方^{カタチ}に^ハ建^{タテ}ル^ル
 皆^{みな}旗^{ハタ}の^ノ建^{タテ}る^ルに^ハ似^ニて^シ鯨^{クジラ}の^ノ形^{カタチ}に^ハ似^ニて^シ
 志^シる^ルも^もあり



紋牛の角あり



